

# アフリカにおける 民間連携を促進する取り組み

～JICA食と農の協働プラットフォーム（JiPFA）  
を通じた共同活動の提案～

令和元年（2019）年6月10日  
国際協力機構 農村開発部

# 本日は、民間企業との協働を想定した JICAの農業分野の取り組みをご紹介します。

1. アフリカにおける本邦企業の農業機械の活用に係る情報収集・確認調査（第2回JiPFA農業機械化分科会）
2. サブサハラアフリカにおける食料安全保障・栄養改善のためのフードバリューチェーン開発に係る情報収集・確認調査（第2回JiPFAアフリカFVC分科会）
3. SHEPアプローチによる小規模農家の所得倍増
4. TICADプロセスにおける主な取り組み

※JICA食と農の協働プラットフォーム（JiPFA）について  
以下のURLでは、JiPFA設立フォーラム、各分科会の概要・資料、会員登録のご案内を掲載しています。

<https://www.jica.go.jp/activities/issues/agricul/jipfa/index.html>

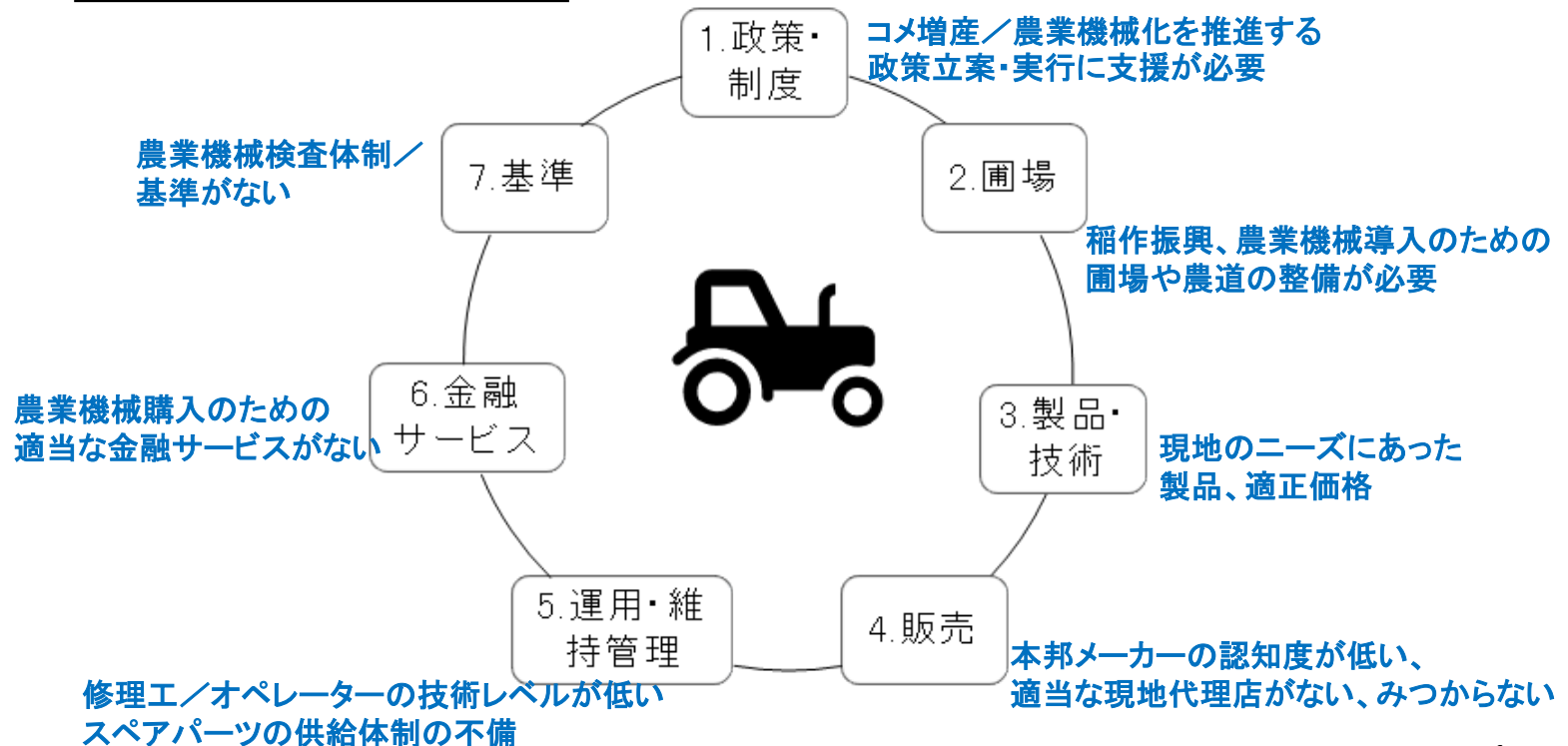
（JICAホームページで「JiPFA」で検索）

# 1. アフリカにおける本邦企業の農業機械の活用に係る情報収集・確認調査（2019年3月～2019年9月）

## ■ 調査の狙い

農業機械化が進んでいないサブサハラアフリカにおいて、農業機械の普及により農業生産性や農産品の品質向上に資すること、また本邦メーカーの**ビジネス進出促進の足掛かり**となり得る**JICA 事業及びODAスキームの提案**を取りまとめること。（※JiPFA農業機械化分科会を通じ、企業・関係者と意見交換）

## ■ 農業機械化の課題



## ■ 支援パッケージ案

### 1. 本邦メーカー農業機械のPR

政策決定者のほか代理店などを対象に本邦農機紹介のための研修を行う。  
小～中規模のデモファームで本邦農機を使用した機械化体系を展示する。

先方政府/ODA	企業
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本邦農機メーカーからの推薦者(代理店等)向けの研修実施</li> <li>・企業訪問及び企業からの講師派遣</li> <li>・現地の農業研修センターや農家グループを対象にモデル圃場を整備し機械化体系を展示する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・代理店の育成を図る(在庫管理や販促)</li> <li>・<b>研修場所及び講師の提供</b></li> <li>・<b>現地に適合した農業機械の開発、提供/貸与</b></li> </ul>

### 2. 機械の購入のための融資制度

投資資金をより良い条件で提供することで、農業機械の普及を促進する。

先方政府/ODA	企業
<ul style="list-style-type: none"> <li>・融資金額の増強を目的とした資金協力</li> <li>・既存融資機関の強化あるいは新設</li> <li>・融資機関と現地代理店(本邦農機メーカー)とのマッチング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>販売促進活動(差別化のできる製品開発・価格設定)</b></li> <li>・販売代理店の配置</li> <li>・<b>(代理店との連携を含め)融資制度の構築</b></li> </ul>

### 3. 包括的な営農支援と機械のメンテナンス支援

購入した顧客に対して、営農支援サービスやメンテナンスサービスの提供。

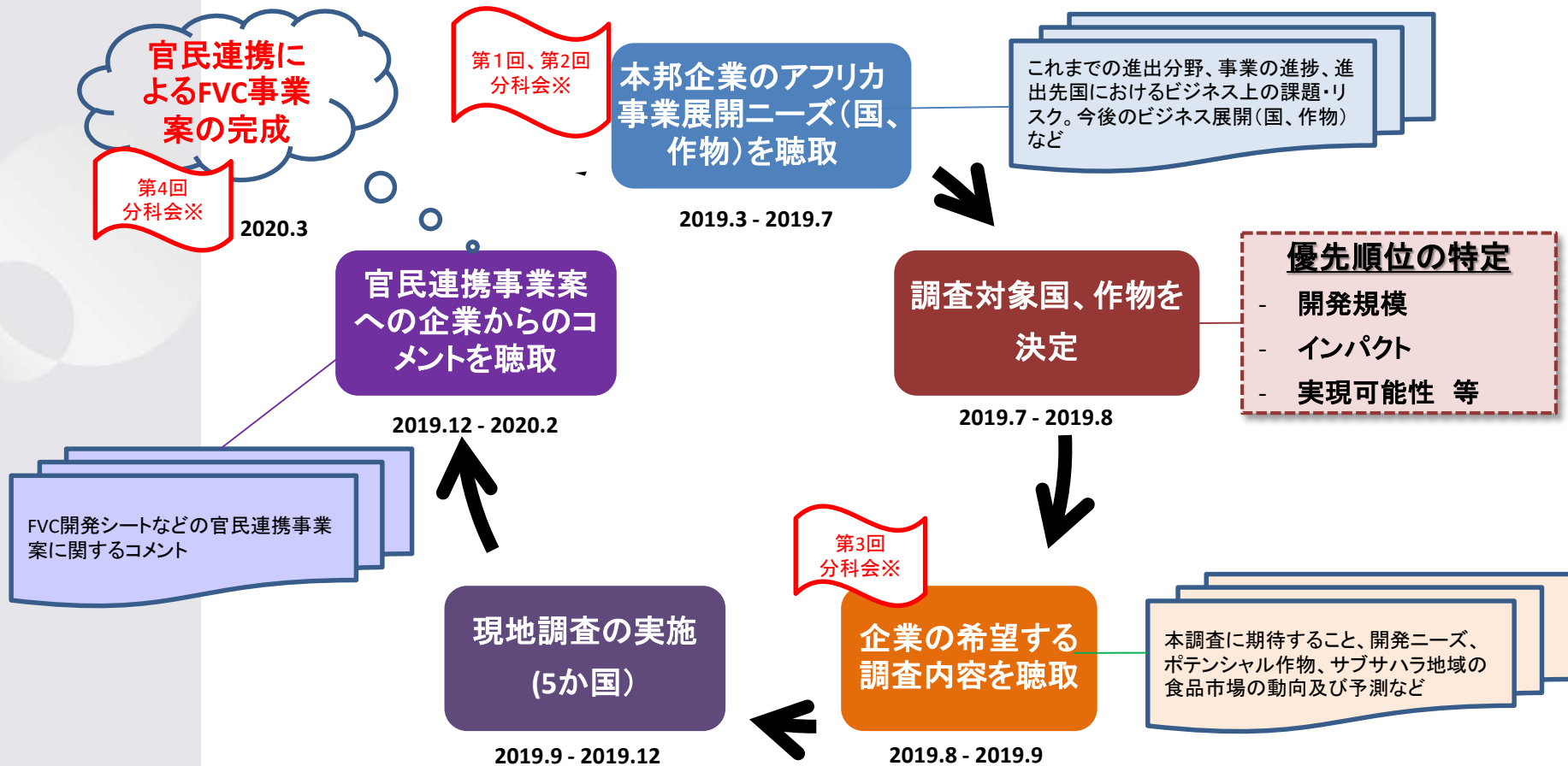
先方政府/ODA	企業
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本邦農機の供与を目的とした資金協力</li> <li>・農機購入者に対する「機械化計画」等を含む営農指導</li> <li>・修理工とオペレーターへのトレーニング</li> <li>・技術者派遣に係る経費支援(本邦農機メーカーからの派遣)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機械化計画や営農サービスに関するノウハウの提供</li> <li>・部品やアフターサービス体制の整備</li> <li>・<b>教材として本邦農機の供与/貸与(現地語マニュアル付)</b></li> <li>・<b>講師(技術者)の派遣</b></li> </ul>

## ■ 今後の予定

6月26日 本邦農機メーカーとの意見交換会(第3回JiPFA農業機械化分科会)

9月 最終成果報告会(第4回JiPFA農業機械化分科会)

## 2. サブサハラアフリカ食料安全保障・栄養改善のためのFVC開発 情報収集・確認調査 (2019年3月～2020年3月)



※JiPFAアフリカFVC分科会を通じ、企業・関係者と意見交換

# 聞き取り調査の結果(その1)

民間企業が直面している課題	本調査および「官」に期待すること
<b>1. 情報</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 現地の農業セクター、食品産業の<b>基礎情報</b>の不足</li> <li>□ 信頼できる<b>現地人材・現地企業</b>の情報不足</li> <li>□ 確証のもてる<b>データ・統計</b>不足</li> </ul> <b>2. 物流</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 内陸部への<b>輸送・コールドチェーン</b>等の未整備</li> <li>□ 煩雑な<b>通関手続き</b></li> </ul> <b>3. コスト</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ <b>農業資材</b>の調達が高コスト</li> </ul> <b>4. 安全性</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ <b>残留農薬</b>の問題</li> <li>□ <b>品質管理</b></li> </ul>	<b>1. 農業生産(情報・技術移転)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 特定商材の<b>普及状況</b></li> <li>□ 特定作物の<b>生産情報</b>(作付面積、単収、種子品種、生産量、価格、品質等)</li> <li>□ 作物の<b>実証試験栽培</b>、種子輸入規制</li> <li>□ <b>良質な原料加工品確保</b>のための技術支援</li> <li>□ <b>農協</b>の実態調査</li> <li>□ <b>小規模農家</b>への支援</li> </ul> <b>2. 食生活・栄養</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 現地の<b>食文化、嗜好</b>などの状況</li> <li>□ 現地住民への<b>栄養啓発活動</b>支援</li> </ul> <b>3. 関連業種の情報</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 現地<b>小売業、フードサービス業</b>の状況</li> <li>□ <b>種苗会社</b>の取り組み(遺伝資源の活用)</li> <li>□ 関連現地企業との<b>ビジネスマッチング</b></li> </ul> <b>4. インフラ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ <b>ハード整備</b>(物流、灌漑、通信環境、道路、橋梁、倉庫等)</li> <li>□ <b>輸出入インフラ</b>の情報整理</li> </ul> <b>5. 日本のウリ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 欧米企業と比較した<b>日系企業のウリ・強み</b>の整理</li> </ul>

## 聞き取り調査の結果(その2)

### JiPFAアフリカFVC分科会に期待すること ～第1回分科会(4月25日)アンケートより

#### 1. 事例共有

- 実施中の官民FVC事例
- 日系企業のアフリカビジネス事例
- 農業ICT等の先進事例
- JICA案件の優良事例、優良農家の情報
- 帰国留学生と日系企業が協働した事例

#### 2. 案件形成

- 産官学が連携した具体的案件形成
- 国際機関の戦略と合致した案件形成
- 案件具体化のための少人数による議論

#### 3. 個別テーマ

- 栄養改善・食育とFVCとの関連
- 農業ICTの活用
- 食品の安全性
- マイクロファイナンス

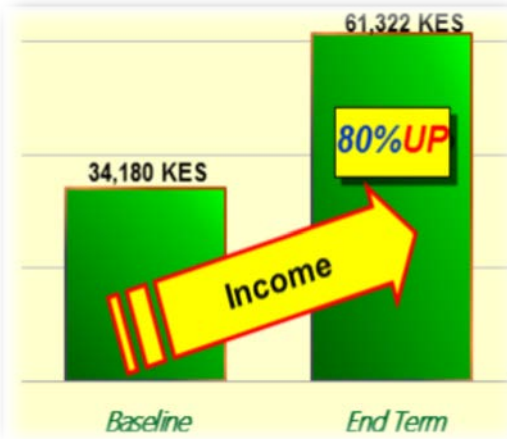
## ■ 今後の予定

2019年9月 第3回JiPFAアフリカFVC分科会(調査結果中間報告にもとづく意見交換)

2020年3月 第4回JiPFAアフリカFVC分科会(官民連携事業案など最終報告に関する意見交換)



### 3. SHEPアプローチによる小規模農家の所得倍増 (JICA事業対象地域での民間連携促進)



農業支援の柱の一つとして、ケニアで生まれたSHEPアプローチをアフリカ**23カ国**を対象に展開中。

- **12,357人**の技術指導者育成
- **120,085人**の小規模農家育成を達成 (2019年3月)



✓ 夫婦を対象に営農や家計について研修⇒夫婦が「経営パートナー」として農業経営。

✓ 市場を学び、栽培品目・時期を改善、収入増により、営農意欲が向上。

✓ 生産性向上や、品質の高い農産物の生産のため、農業資材の重要性を認識。



農業資材への投資意欲がある農家に対し、企業による技術・資材普及への可能性(JICA事業対象地域での民間連携)



## 4. TICADプロセスにおけるJICAの主な取組み

日本の農業発展の経験、知見、技術を基にした支援

産官学の各々の優位性を活かした支援

- 稲多収栽培技術
- 灌漑・水管理技術
- 稲品種改良



TICAD IV (2008)

### CARD(稲作振興)

- ・JICAがリードする国際イニシアチブ
- ・10年間でアフリカコメ生産倍増達成
- ・2019年よりフェーズ2、32か国展開

- 農業普及改良事業
- 営農指導
- マーケティング



TICAD V (2013)

### SHEP(市場志向型農業)

- ・JICA発の農業普及アプローチ
- ・現在、23か国展開
- ・2030年までに100万人の農家へ展開

- 生活改善事業
- 母子保健
- 食育・学校給食



TICAD VI (2016)

### IFNA(栄養改善)

- ・JICAがリードする国際イニシアチブ
- ・食を中心とするマルチセクター活動
- ・2025年までに子供2億人の栄養改善



TICAD VII (2019)

- ・上記取り組みのさらなる加速
- ・アフリカ農業協力における民間連携の促進

# TICAD7におけるサイドイベント



## CARD(稲作振興)

- ・日時・場所: 8月30日(金) 16:00～17:30 於インターコンチネンタルホテル
- ・目的: CARDフェーズ2によりアフリカのコメ生産を拡大していく
- ・主な登壇予定者: 農業大臣(アフリカ数か国)、JICA、NEPAD、AGRA、国際機関、等

## SHEP(市場志向型農業)

- ・日時・場所: 8月29日(木) 10:00～11:30 於インターコンチネンタルホテル
- ・目的: アフリカ政府関係者および民間、関連団体とともに、SHEPアプローチを農業普及に取り込み100万人の農家のよりよい暮らしを実現する
- ・主な登壇予定者: 農業大臣(アフリカ数か国)、JICA、国際機関、民間企業、等

## IFNA(栄養改善)

- ・日時・場所: 8月27日(火) 16:00～17:30 於インターコンチネンタルホテル
- ・目的: IFNAの優良事例を発信し、2億人のアフリカの子どもたちの栄養改善に向けて重点国を中心に進めているIFNAの経験・活動を全アフリカに拡大していく
- ・主な登壇予定者: 大統領・農業大臣(アフリカ数か国)、JICA、NEPAD、国際機関、等

※一般参加者の募集は7月下旬頃にJICAホームページで募集予定